

地域発・防災ラジオドラマ
グループ名 「鵜沼中学校地区防災協議会」
タイトル 「避難所は混乱の始まり」

●登場人物

山下さん 市の施設従事者（施設長）
小野さん 市の施設従事者（保育園保母）
本間さん 花沢町会在住者（60代）
松本さん 橘町内会在住者（60代）
野口さん クリオマンション在住者（70代） 在住歴5年
森川さん 大東町内会在住者（30代） 在住歴3年

山下：「私が避難所施設長の山下です。避難施設の安全は確認いたしました。中に詰めて入ってください。」

小野：「まず上の倉庫からゴザを出して場所を決めますので手伝ってください。」

森川：「俺達は家が壊れている訳ではないし、余震が恐く、電気、水も食料も準備してないのでここに来ただけで寝泊まりする訳ではない。大東町内会はまず鵜沼中に行けと言っている。もらいに来たただけ。上から重い物を持って来るのはやりたくない。」

小野：「非常時なのであなたの様な若い力が必要なんです。お願いします。」

野口：「私も手伝いたいが歳で重い物は持てないのでお願いします。」

森川：「しょうがんねえな。じゃあ手伝ってやるよ」

森川：「俺が降ろして来たんだから一番良い場所を利用させてもらうぜ。」

小野：「それは困ります。町内会ごとに場所を決める事になっているはずですよ。」

森川：「そんな事誰が決めたんだよ。決まった規則でも有ったら見せてくれ。」

小野：「施設長どうでしょうか。あんな事言ってますが。」

山下：「市の決めた運営マニュアルにはそんな事は書いてないし、困ったな。町内会長や防災会の人はまだ誰も来ていないし。」

本間：「私の町内会長や防災部長も町内の対応に追われてここには来れないでしょう。」

松本：「うちの町内会長は家が壊れケガをしたらしいですよ。」

山下：「森川さん申し訳ないけど避難施設は家が壊れ住めなくなった人が住む所で家がしっかりしている貴方は住めないのですが。」

森川：「ふざけんよ。普段いつも震災に遭ったら鵪中に避難しましょうって言ってるじゃないか。だから宿泊はしない、余震が収まるまで世話になりに来たんだ。夜は家に帰る。他にも大勢俺みたいな人が来てるし、そんな人達をどうすんだよ。」

山下：「他にも家が住めるのにここに来ている人はいますか。」

(百人以上の手が挙がる)

小野：「次々と人が集っています。体育館だけでは収容しきれませんね。」

山下：「一階の教室を全て開放しよう。」

野口：「私もマンションが壊れている訳ではないが、全て止まっているので来ている。とり合えず皆さんが落ち着くまで中で過ごさせましょうよ。そのうちに各町内会の会長さんも来られるでしょうから。」

山下：「そうしましょう。野口さん申し訳ないがこのリーダーをやっていただけないでしょうか。運営マニュアルでは避難所の運営は全て避難している人達でやる事になっていますので。貴方の様な年長者にやっていたくのが一番良いと思いますんで。」

野口：「私に出来ますかどうか。この状況ではやらざるを得ませんね。」

山下：「まず場所の仕分けをお願いします。」

野口：「皆さん、町内会ごとに固まって集ってください。その中から各町内会ごとに代表を出して下さい。代表が集って場所決めをやりませう。」

(9町内会と4マンション、他地域に分かれ、決まらず、抽選で決めた。)

野口：「各町内の代表で運営委員会を作り、各町内会の役割分担を決めます。」

(会議室に集まり運営委員会が始まる)

野口：「それではまず名簿班をやる町内会はありますか。」

(誰も手を挙げず空白の時間)

野口：「花沢町内会さんいかがですか。」

本間：「名簿班は、人の出入りを管理しなければならず大変だ。第一パソコンが扱えなければ仕事にならない。うちでは無理だ。」

野口：「では橘町内会さんはどうですか。」

松本：「うちも年寄りばかりだからでパソコンも使えない。無理だ。」

(慌ただしい人々の声が聞こえ混乱している様子が判る)

小野：「施設長大変です。水が出ないにもトイレを使用して糞尿が溢れ出て床一面すごい事になっています。」

山下：「衛生班をすぐ立ち上げよう。」

野口：「橘町内会さんやっていただけませんか。」

松本：「糞尿の世話なんて何で内の町内がやらなきゃあいけないんだ。私にもし受けたら町内の人に吊るし上げられてしまう。」

山下：「過去に一度も避難所の訓練をせずいきなり状況も判らずに様々な役を与え申し訳なく思っています。是非、この状況の中では私が頭を下げるしかありませんのでご協力をお願いします。事前に細かいマニュアルを作り、役割分担等も決めておけば良かったのですが。」

松本：「施設長にそこまで言われたらしようが無いですね。協力しましょう。」